

平成29年度 宮城県石巻高等学校 学校評価（自己評価・学校関係者評価） 集計結果

宮城県石巻高等学校
学校評価検討委員会

1 自己評価（外部アンケート）

（1）対象・回答数等

対象・区分	回答数	評価時期
教職員（自己評価）	48	平成29年12月
生徒（外部アンケート）	683	
保護者（外部アンケート）	500	

※ 平成29度は、7月に中間評価を実施し、年度途中の点検・見直しに取り組んだ。

（2）質問項目・評価方法

○項目数 自己評価：21項目，外部アンケート：20項目

○評価方法（実現度評価：4段階）

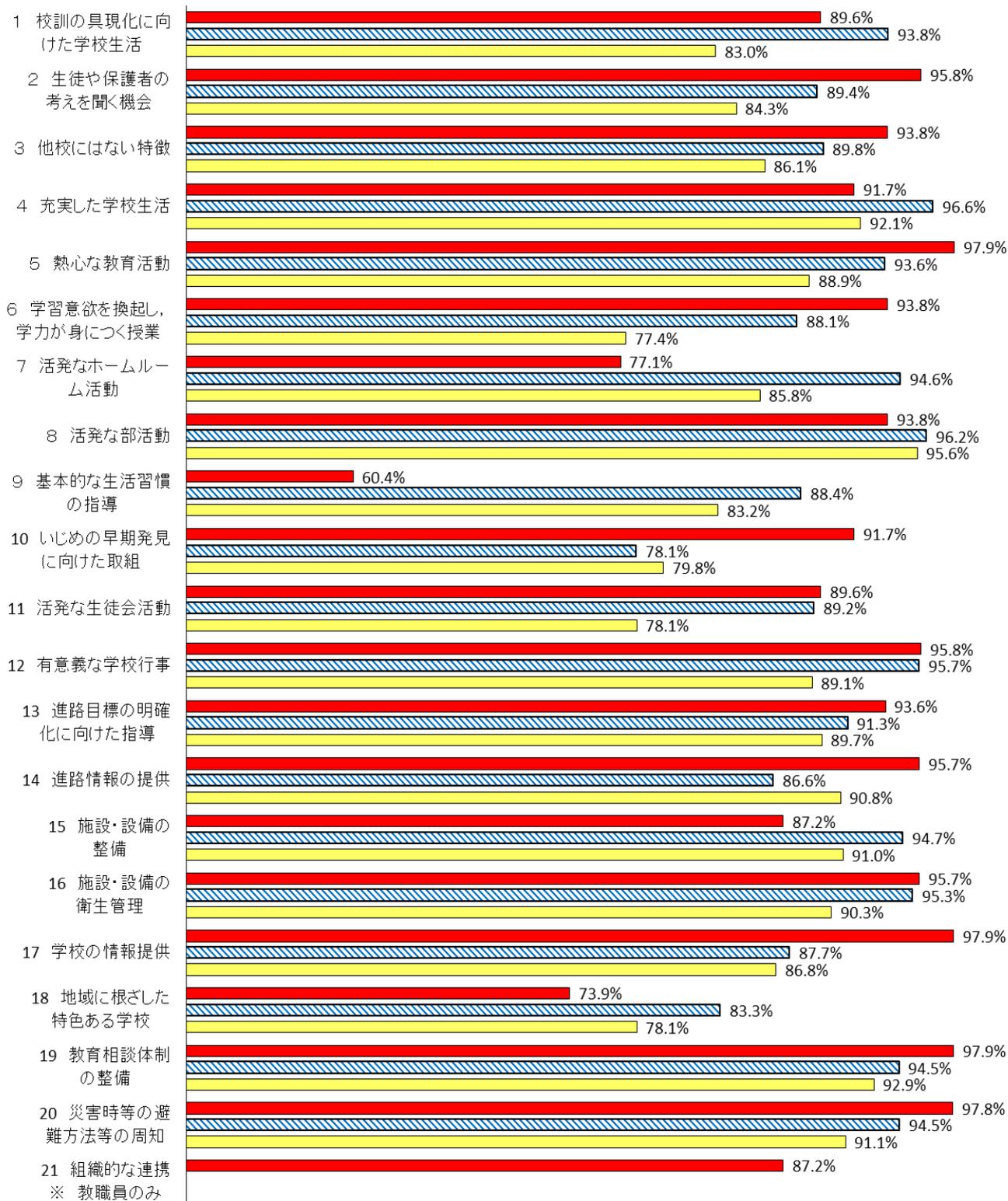
- ・肯定的回答…「1 よく当てはまる」＋「2 だいたい当てはまる」
- ・否定的回答…「3 あまり当てはまらない」＋「4 当てはまらない」

No	質問項目（1～20は自己評価・外部アンケート共通の内容）
1	生徒は、校訓を理解し、その具現化に向けた学校生活を送っている。
2	本校では、生徒や保護者の学校に対する考えを聞く機会を設けている。
3	本校には、他校にはない良い特徴がある。
4	生徒の学校生活は充実している。
5	本校では、教職員が熱心に日常の教育活動にあたっている。
6	本校では、生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力が身につけられるような授業が行われている。
7	本校では、ホームルーム活動が活発に行われている。
8	本校では、部活動が活発に行われている。
9	本校では、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。
10	本校では、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。
11	本校では、生徒会活動が活発に行われている。
12	本校には、生徒にとって有意義な学校行事がある。
13	本校では、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。
14	本校では、進路に関する情報が生徒や保護者に十分に提供されている。
15	本校では、校舎やグラウンドなどの施設・設備が整備されている。
16	本校では、施設・設備が衛生的に管理されている。
17	本校では、学校からの情報が生徒や保護者に適切に伝えられている。
18	本校では、地域の伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。
19	本校では、教職員やカウンセラーが必要な時に相談に応じる体制ができています。
20	本校では、生徒や保護者に災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている。
21	本校では、分掌部や学年、教科等が連携しながら、教育活動に取り組んでいる。（※ 自己評価：教職員対象）

(3) 集計結果

平成29年度 学校評価 集計結果－肯定的回答の割合(%)－

■ 教職員 ▨ 保護者 ■ 生徒



(4) 自己評価の結果分析・考察

● 「1 校訓の具現化に向けた学校生活」について

- 自己評価及び保護者（外部アンケート）では肯定的回答（％）は増加したが、生徒（外部アンケート）では減少した（前年比）。
- 例年4月に新入生オリエンテーションや応援団による「応援練習」を実施し、本校の沿革等について説明したり、「生徒心得綱領」及び校歌・応援歌の指導を行ったりしている。このため、新入生に対して早期からスクールアイデンティティの理解を図ることができていると思われる。
- 生徒一人ひとりの状況は異なるが、全体としては自らの目標に向かって落ち着いた学校生活を送っているものと思われる。

● 「2 生徒や保護者の考えを聞く機会」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 本校では、毎年4月に「個人面談」を実施し、ホームルーム担任を中心に生徒一人ひとりの学校生活（学習・部活動等）や進路希望、家庭生活の状況に係る情報を、早期に把握し共通理解を図っている。
- 毎年7月から8月にかけて、全生徒を対象にホームルーム担任による「保護者面談」を実施し、生徒の学校生活の状況を保護者に伝えるとともに、家庭生活の状況や進路希望等を確認するなどしている。
- この他、PTA総会や学年協議会、保護者対象の進路説明会等を開催するなど多くの機会を設けるとともに、教育相談の分野においては保健室を窓口スクールカウンセラーによるカウンセリングやスクールソーシャルワーカーによる支援など、日頃から生徒の変化を適切にとらえ、対応している。

● 「3 他校にはない特徴」について

- 自己評価及び生徒（外部アンケート）では肯定的回答（％）は増加したが、保護者では減少した（前年比）。
- 本校では、地域の拠点校として独自の校風・伝統を大切にされた教育活動、オールイングリッシュの授業に代表される英語科の取組（魅力ある県立高校支援事業・先進的英語教育充実支援事業）などに取り組んでいるところであるが、教職員間で本校の良さを改めて見直すとともに、さらなる発展に向けて検討していきたい。
- 高等学校においては次期学習指導要領の改訂を控えているところであるが、「カリキュラム・マネジメント」や「社会に開かれた教育課程」がキーワードとして掲げられている。生徒や保護者のニーズ、本校に対する地域の期待に応えた学校づくりに向けて、将来のビジョン・展望を再検討するなどして取組を進めていきたい。

● 「4 充実した学校生活」について

- 自己評価は減少したが、生徒・保護者（外部アンケート）については肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 全体としては学校生活に対する満足度は高いものと考えられる。
- 現在取り組んでいる教育活動を維持しながら、引き続き生徒の実態を踏まえた工夫・改善に努め、他の項目における考察を踏まえて更なる向上を目指して取り組んでいきたい。

● 「5 熱心な教育活動」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 日々の学習指導をはじめ、生徒指導や進路指導、部活動等、本校教職員の校務運営に対する姿勢が概ね生徒・保護者に伝わっているものと思われる。
- 他の項目における考察を踏まえて、引き続き生徒一人ひとりを大切にしたていねいな支援・指導にあたっていきたい。

● 「6 学習意欲を喚起し、学力が身につく授業」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（%）は増加した（前年比）。
- 各教科においては、生徒の進路希望状況を踏まえた上で、基礎・基本の定着にとどまらず、学力の向上を意識しながら学習指導を展開している。本校では、各教科担当者が授業評価を実施しているが、PDCAサイクルに基づいた授業改善に向けてさらに取り組んでいきたい。
- 先進校視察等を通して進路指導の観点を踏まえた拠点校の在り方を模索するとともに、学習習慣の定着を図るための朝学習（各学年：国・数・英・新聞コラム等）、進路希望に応じた学力向上を図るための課外講習等に引き続き取り組んでいきたい。
- 今後、次期学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の工夫・改善等に取り組んでいく必要があるが、各教科において適切な授業運営を進めるとともに、カリキュラム・マネジメントの視点から教科横断的な取組等についても検討を進めていきたい。

● 「7 活発なホームルーム活動」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（%）は増加した（前年比）。
- 週1単位時間設定されているLHR（ロングホームルーム）については、年間の授業時数の確保が難しい現状にあるが、学校行事や「総合的な学習の時間」等における取扱い内容を踏まえて、指導項目をバランスよく配置するよう工夫をしている。
- 上記のことから、各学級（ホームルーム）独自の活動を実施する時間が制限されるが、生徒による自主的・自治的な活動は、日々の学習活動や学校行事等の特別活動の基盤となる支持的風土の醸成、卒業後の社会参画につながるコミュニケーション力の育成に寄与するものと思われるので、引き続き工夫を凝らしながらホームルーム活動を運営していきたい。

● 「8 活発な部活動」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（%）は増加した（前年比）。
- 運動部・学芸部ともに年間を通じて学習との両立を図りながら、積極的に活動をしている。
- 運動部については、東北大会やインターハイなどの上級大会に、陸上競技部、ウエイトリフティング部、ボート部、水泳部等が出場した。また、本年度は南東北インターハイの一部の競技が本県を会場に実施されたが、部によっては大会運営等に取り組んだ。
- 学芸部については各種大会・コンクール等で表彰を受けるなど活発に活動するとともに、地域の各機関・団体と連携した地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。
なお、本年度実施された全国総合文化祭では、新聞部が企画運営中心校として尽力した。
- 次年度は、体育館の改修工事があることから、体育館を使用する運動部の活動が制限されるが、地域の体育施設等と連携しながら対応を進めていきたい。

● 「9 基本的な生活習慣の指導」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（%）は増加した（前年比）。
- 生徒指導部及び各学年を中心に服装の着こなしや挨拶の励行等について指導しているところである。教職員間で生徒の実態を踏まえた生活指導の在り方について共通理解を図りながら、引き続き取組を進めていきたい。
- 交通安全講話や「学校安全の日」における集会、ネット被害未然防止講話、危険ドラッグ防止講話等、生活安全や生命の大切さを考える学校行事を実施してきたところであるが、本年度は自転車利用に係るレッドカード、SNSの不適切な利用に係る問題が見られたことから、引き続き関係諸機関や家庭との連携しながら対応を進めていきたい。

● 「10 いじめの早期発見に向けた取組」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 本年度は、いじめ問題対策委員会（生徒指導部所管）による「学校生活アンケート」を毎月実施し、いじめの早期発見に努めてきた。
- 「学校いじめ防止基本方針」の一部改訂を行い、概要版を学校ホームページ（HP）に掲載するなどした。
- 各学年においては、学年集会等を通していじめに係る話題を適宜取り上げるなどして未然防止に努めるとともに、各ホームルーム担任、部活動顧問等による指導等に取り組んでいる。引き続き、様々な機会を通して、生徒・保護者に対する啓発を行うとともに、教職員にあっては適切な情報共有と行動連携に取り組んでいく。

● 「11 活発な生徒会活動」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 生徒会総務及び各種委員会（生徒）を中心に学校行事等の企画・運営に積極的に取り組んでいる。生徒の自主的・自治的な活動を重んじながら、生徒指導部を中心に適切な指導にあたっている。
- 本年度は、学校生活スローガンを「輝峰一輝く頂上を目指してー」とし、全校をあげて進取独創の気概をもって学校生活を送るよう啓発してきた。
- 引き続き学校生活の課題等を取り上げ、生徒一人ひとりの共通認識のもと、学校生活全般への積極的な参画を促しながら、社会人に求められる資質・能力の育成に取り組んでいきたい。

● 「12 有意義な学校行事」について

- 自己評価及び保護者（外部アンケート）では肯定的回答（％）は増加したが、生徒では若干減少した（前年比）。
- 授業時数の確保及び年間を通したバランスのよい配置を心がけ、年間計画を作成の上実施している。前述のとおり、生徒会活動とつながる学校行事については、生徒の自主性を重んじ、企画・運営にあたらせている。
- その他、各分掌部の教職員を中心に計画・実施にあたる各種行事については、生徒や保護者の参加及び取組状況等を踏まえ、前年度踏襲に陥ることのないよう工夫・改善を行いながら取り組んでいる。

● 「13 進路目標の明確化に向けた指導」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 「総合的な学習の時間」における「大学模擬講義」、「職業講話」、「鰯陵塾」等を通してキャリア教育（志教育：普通科におけるキャリア教育推進事業）の推進を図っている。
- 進路行事や課外講習、模擬試験については、高校生活3年間を見通して指導を行っているが、希望者模試の受験者や進路室の利用者が増加し、進路意識の高揚が見られる。
- 先進校視察を実施し、本校における学習指導や進路指導等の在り方について検討を進めている。
- この他「自学自習スペース」を拡充し、自主学習を促すための環境づくりを行った。
- 大学入試改革（大学入学共通テスト等の実施）に係る国の動向を踏まえて、適切な指導を進めていきたい。

● 「14 進路情報の提供」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 進路指導部を中心に各種進路行事を運営し、生徒にあっては「総合的な学習の時間」等を中心に自己の生き方・在り方に係る学習に取り組んでいる。
- 保護者に対しては保護者説明会を実施したり、進路だより「進運」を発行したりするなどして適切な情報提供に取り組んでいるところである。
- 大学入試改革（大学入学共通テスト等の実施）に係る国の動向を踏まえて、必要に応じて適切な情報提供を進めていきたい。

● 「15 施設・設備の整備」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 構内の施設・設備については、全体的に大きな問題は見られない（学校保健計画に基づいた定期点検を年2回実施）。
- 修繕等が必要な箇所については、事務室（技師）と連携の上、速やかに対応するようにしている。
- 本年度はWi-Fiの敷設、職員室のエアコンの設置などが行われた。
- 次年度は、体育館の改修工事が行われることから、体育館使用運動部の活動や学校行事の会場について、検討の上対応を進めていくこととなる。様々な制約が生じるものと考えられるが、企画・運営面で工夫を凝らしながら、できるだけ質の高い活動となるよう取り組んでいきたい。

● 「16 施設・設備の衛生管理」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 通常の清掃活動や年2回のワックスがけ等に取り組み、日頃から校内美化に対する意識を高めるよう取り組んでいる。
- 「学校保健計画」等に基づいた定期点検や環境衛生検査等に取り組み、日頃から養護教諭（保健室）を中心に衛生管理に努めている。
- 引き続き校医や保健所等の関係機関と連携しながら、対応を進めていきたい。

● 「17 学校からの情報提供」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- PTA会報「あさしお」や進路だより「進運」、石高通信（月1回発行：HP掲載）などを作成し、生徒や保護者に配布するなどして積極的な情報発信を行ってきた。
- 各学年にあっては、学年だよりを発行し、タイムリーな情報提供に取り組んでいる（ホームルーム担任による「ホームルーム通信」含む）。
- その他、保健だよりや図書館だよりなども定期的に発行している。
- PTA総会や学年協議会、保護者対象の進路説明会など、情報発信の機会を適切に設けるようにしている。
- なお、これらの保護者対象の活動については、必要に応じて「緊急連絡メール」を活用し情報発信している。また、保護者面談（三者面談）等の機会を利用して情報提供している。

● 「18 地域に根ざした特色ある学校づくり」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 「総合的な学習の時間」、部活動等を通じて、地域連携を視野に入れた活動に取り組んでいるところであるが、地域の「伝統」の観点に基づく取組については、十分とはいえないところもある。
- 引き続き、地域貢献に係る活動を実施しながら地域に根ざした特色づくりに取り組むとともに、積極的な情報発信を進めていきたい。
- この他、「石巻地区学習塾との意見交換会」や「学校公開週間」の設定、中学生を対象とした「オープンキャンパス」の実施など、開かれた学校づくりに取り組んでいる。

● 「19 教育相談体制の整備」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 本年度は、スクールカウンセラーに加えてスクールソーシャルワーカーを配置した。
- 引き続き家庭と連携しながら、個に応じた適切な支援にあたっていきたい。
- 教職員にあっては、カウンセリングマインドをもって生徒指導にあたるとともに、生徒の変化を敏感にとらえ適切に情報共有しながら組織的対応を進めていきたい。

● 「20 災害時等の避難方法等の周知」について

- 自己評価及び生徒・保護者（外部アンケート）のいずれにおいても肯定的回答（％）は増加した（前年比）。
- 本年度は、防災主任を中心に「防災マニュアル」の見直しを図るとともに、緊急時の対応として「生徒引き渡し」に係る調査・データ管理に取り組んだ。
- 例年、所轄の消防署と連携の上、避難訓練や防火訓練を行い防災意識の高揚を図っている。
- 原子力発電所の事故や弾道ミサイルの発射を想定した避難訓練等の在り方、避難所運営の在り方について検討を進めていきたい。

● 「21 分掌・学年・教科等の組織間の連携」について

- 本項目については、前年度まで「分掌間」「学年間」「学年－教科間」等の組織間連携のそれぞれについて自己評価をしていたが、本年度より1つに取りまとめたため、組織間連携の「総合評価」となる。
- 本年度については、前年度の肯定的評価（％）が最も高かった「学年－教科間」よりも大きく増加し、教育活動全般において十分な連携が図られていることが示唆される。
- 引き続き、分掌部会や教科会、学年会、各種委員会等を適切に開催し、必要に応じて他の組織等との協働を図りながら業務を遂行していきたい。

2 学校関係者評価

(1) 評価者 本校学校評議員(4名)

(2) 評価時期 平成30年2月

(3) 自己評価結果に対する評価

◆ 評価段階

A 達成している	B おおよそ達成している	C あまり達成していない	D 達成していない
----------	--------------	--------------	-----------

評価分野	評価項目	自己評価(概要)		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 積極的に自学自習する態度の育成と家庭学習習慣の定着	B	主要3教科(国・数・英)における基礎・基本の早期定着を促す朝学習の実施、各教科による個別面談指導等を実施した。各学年・教科を中心に積極的に取り組み、学習習慣の定着が見られた。また、定期考査や模擬試験の結果を踏まえた取組も見られた。	B	B
	② 進路希望に応じた適切な科目選択の指導	B	科目選択説明会の実施と面談指導、教室への閲覧用教科書の設置を行った。科目選択説明後の担任や教科担当者による個別指導や日頃から選択科目の教科書に目を通す機会が増えたことから、進路希望に応じた効果的な指導を実施できた。	A	A
	③ 授業の充実と授業力の向上	B	各教科担当で授業評価(自己評価)を行い、生徒の実態を踏まえて授業計画を見直し、指導方法の改善に取り組んだ。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれに学力に差があり、一様に学力向上を目指すのは難しいが、個々に応じた学習方法を身につけられればと思う。 ・個性を重視し、挑戦する意欲を喚起するような指導をしてほしい。 ・これまでの取組を踏まえて、引き続き熱心な指導に取り組んでほしい。 			
生徒指導	① 責任を自覚し、諸規定の遵守を重んじながら、よりよい高校生活を送るための気概に満ちた生徒の育成	B	ホームルーム活動や外部人材による講話、学年集会等を通してルールの遵守やマナーアップを図るよう取り組んできたが、校内におけるスマートフォンの使用が見られた。また、SNSの利用に係る問題行動等が見られた。部活動の加入率は95%以上を維持しているが、活動状況等については部によって差が見られた。	B	B
	② 自ら考え主体的に判断し、行動する生徒の育成	B	ホームルーム担任や各学年等において、挨拶や服装の着こなし等の基本的生活習慣の指導にあたってきたが、さらに個別の指導が必要である。また、自治的な活動を担う生徒会活動(委員会活動)の活性化を促し、積極的な学校生活の工夫・改善への参画を進めてきた。	A	A
	③ 他者と協働して物事に取り組む自主性と社会性を備えた生徒の育成	B	ホームルーム活動や学校行事等の特別活動の指導や部活動における地域貢献活動(地域連携)等を通して、積極的に関わる姿勢・態度の育成を図ってきた。さらに、全体を通して様々な活動に参加する機会を設けていきたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの取り扱い方、使用時間の長さなど、機会を見つけて指導してほしい。文化祭を見学したが何かを成し遂げることの大切さを学んだと思う。 ・社会の一員であることの自覚を徹底するような指導をしてほしい。 ・引き続き生徒との対話を大切にしながら指導に当たってほしい。 			
進路指導	① 将来の進路を見据え、一人ひとりの適性と能力に応じた進路の実現	B	関係各部・学年等との連携を深め、円滑な業務運営に取り組むとともに生徒の自主学習スペースの確保などの学習環境の整備に取り組んだ。生徒の進路指導室や自学自習スペースの利用率が向上し、個別指導を効果的に行うことができた。	A	A
	② 生徒一人ひとりの学力の把握と個に応じた指導の展開	B	模擬試験結果のデータを教職員間で共有し、各教科における指導に役立てられるようにした。授業や課外講習等において生徒の状況を踏まえた適切な指導にあたることができた。	A	B
	③ 大学入試制度の変化と多様化への速やかな対応	B	進路指導に係る各種会議・研修会への参加、先進校の視察を行い、国の動向や先行研究に係る情報を集めるとともに、職員会議等を通して情報の共有を図った。また、必要に応じて進路だよりを通して生徒等に情報発信を行った。	B	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく早くから個人の進路を考えておくべきで、それぞれに応じた情報や家庭の経済力の問題もあり、幅広い対応が求められる。 ・現状に甘んずることなく、上位校へ挑戦する意欲をもたせてほしい。 ・引き続き生徒及び保護者に対して最新の情報提供をしてほしい。 			

学校安全・心のケア	① 防災・防火避難体制の確立	B	避難訓練の実施の他、「学校防災マニュアル」の見直しを行い、緊急時の引き渡しに係る事前調査と対応に係るルールを保護者に周知した。また、市危機対策課と指定避難場所としての在り方等について協議した。	A	A
	② 施設・設備等の安全点検と危機管理体制の確立	A	構内の施設・設備等について定期的な安全点検を実施し、瑕疵、劣化等の有無を調査した。学校管理下における事件・事故の対応に係る危機管理マニュアルを整備し、教職員間の共通理解を図った。	A	A
	③ 保健活動と教育相談体制の充実	A	ロングホームルーム等を活用した保健講話、NPOと連携した生徒向け研修会を実施し、基本的な生活習慣の在り方や健康管理に係る指導を講じた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、ホームルーム担任や各学年と適切な情報共有を図りながら、個に応じたカウンセリング等の支援に取り組んできた。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーなど、教育相談体制が充実しているように思われ心強い。また、教職員間の共通理解も必要だと思う。 ・校舎内外の美化が、服装の美化、清潔感につながると思う。 ・引き続き地域（関係機関・自治会等）と連携した教育活動の推進に取り組んでほしい。 				

(4) 次年度に向けた課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 学力向上に向けた学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における指導方法の工夫と改善を図るために授業評価及び互見授業等を適切に実施する（次期学習指導要領の内容を踏まえた取組等）。 ・望ましい学習習慣の定着を図るために朝学習を実施するとともに家庭学習課題の効果的な活用を促す。 ・進路希望の状況を踏まえて適切な学習指導及び課外講習等を実施する。
② 自主的・自律的な学校生活に向けた指導と社会性・協調性を育むための指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の充実及び社会的マナーの向上を図るために、あらゆる機会を通して望ましい生活について考える姿勢・態度を育むための指導を実施する。 ・ホームルーム活動や生徒会活動等の特別活動、部活動等を通して、望ましい集団生活や社会人としての在り方・生き方について考えさせるとともに実践的な姿勢・態度を育むための指導を実施する。
③ 進路実現に向けた組織的な取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な進路目標をもたせるとともに、個に応じた進路指導の充実を図るため、ホームルーム活動や「総合的な学習の時間」等における効果的な進路指導を実施する。 ・進路実現に向けた学習指導の充実を図るために、模擬試験や課外講習、学習合宿を実施する。 ・進路指導体制の充実を図るために先進校視察や校内研修会を実施する。 ・大学入試改革の動向を踏まえて、情報を適切に発信するとともに、校内の組織体制等の充実を図るための取組を実施する。
④ 学校安全及び心のケアに係る組織的な取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・より実効的な「防災マニュアル」、「危機管理対応マニュアル」とするために、学校安全や危機管理に係る定期的な点検及び不断の見直し・検証を実施する。また、避難所運営に係る市当局との調整、原子力発電所における事故や弾道ミサイル発射・着弾に係る行動計画の検討に引き続き取り組む。 ・心身の健康の充実を図るために、スクールカウンセラーを要とした効果的な教育相談体制の充実に向けた取組を実施する。また、生徒に係る情報を教職員間で適切に共有し、支援・指導の充実を図る。